



第41回 全日本中学生水の作文コンクール 和歌山県入賞作品集

有田川

和歌山県

表紙の写真『有田川』（和歌山県ホームページ フォトギャラリーより）

その源を高野山の楊柳山に発し、紀伊水道に注ぐ、延長約94kmの二級河川です。上流域には有田川の蛇行によって形成された扇状の棚田「あらぎ島」があり、「日本の棚田百選」に認定されています。

シーズンになると、鮎釣りを楽しむ人々で賑わいます。

あ い さ つ

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える限りある貴重な資源です。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうした中、水を私たち共有の財産と位置づけるとともに、国民の皆様には、健全な水循環の重要性についての理解を深めていただくため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

この一環として、和歌山県では、中学生を対象に、昭和五十四年から続く「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しており、本年は、四八九編の応募をいただきました。いずれの作品も、「水について考える」というテーマにふさわしく、つい忘れがちな水の大切さ、有り難さについて考えさせられる作品で、水を大切にしようという思いがよく伝わってまいりました。

このたび、入賞作品十八編を作品集にまとめましたので、ご家庭や学校でご活用いただき、水についての関心をさらに高めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

令和元年八月六日

和歌山県企画部長 田嶋 久嗣

もくじ

優秀賞

美しい水と、共に。

すべての生命に関わる水

水の大切さ

入選

潤いに満ちた未来を目指して

水と生きる

自然の恵み

水の旅

命の重さと水災害の怖さ

和歌山県立向陽中学校 二年 大棟 日花莉 . . . 1

和歌山県立田辺中学校 三年 家門 美紅 . . . 3

和歌山県立向陽中学校 二年 富永 遥菜 . . . 5

和歌山県立古佐田丘中学校 二年 石橋 世菜 . . . 7

和歌山県立田辺中学校 二年 金谷 ゆら . . . 8

和歌山県立向陽中学校 二年 櫻井 なつき . . . 9

和歌山県立向陽中学校 二年 福田 桃花 . . . 10

和歌山信愛中学校 一年 松本 麻椰 . . . 11

「地球を守る水」の現状

私たちの生活と水

命と水のかかわり

水は大切な物

限りある資源を大切に

身近な水の大切さ

水不足と海

きれいな水を残すために

水と生きるためにある物

水を守るため

和歌山県立田辺中学校

三年

朝間

聖菜

・
・
・
1 2

和歌山県立田辺中学校

三年

神野

アユミ

・
・
・
1 3

和歌山県立向陽中学校

二年

佐原

花音

・
・
・
1 4

海南市立下津第一中学校

一年

竹中

大喜

・
・
・
1 5

和歌山県立向陽中学校

二年

寺岡

昊汰

・
・
・
1 6

和歌山県立田辺中学校

一年

寺段

愛良

・
・
・
1 7

田辺市立秋津川中学校

二年

堂柿

颯太

・
・
・
1 8

和歌山県立田辺中学校

三年

濱口

姫生

・
・
・
1 9

和歌山市立加太中学校

三年

榎岡

丈太郎

・
・
・
2 0

和歌山信愛中学校

一年

山本

遥奈

・
・
・
2 1

(掲載順序は五十音順です。)

優 秀 賞

美しい水と、共に。

和歌山県立向陽中学校 二年

おおむね ひかり
大棟 日花莉

「水は、なんて美しいのだろう。」
そう思ったのは、ある本との出会いからだ。小学校の図書室で偶然手に取ったその本は、水の様々な姿をとらえた写真集。中には、水しぶきなどの一瞬の形をとらえた写真がたくさん載っていた。私は、その中でも、蛇口からしたたるしずくが水面で、冠の形をつくっていた写真に釘付けになった。透明なしずくが生み出したその冠は、まるで水晶から削り出した彫刻のようだった。恐ろしいほど、美しかった。この日、私は初めて、水には「美しさ」があるのだと知った。

水の写真集を読んでから数カ月たったある日、私は、小学校の課外学習で地域の浄水場を訪ねた。そこでは、井戸からくみ上げた地下水を、飲めるほどの綺麗な水道水に生まれ変わらせ、各家庭や施設に届けている。私は、水が届けられるまでの工程に関わる人々の、努力に度肝を抜かれた。浄水場には、多くの機械がある。なんと、浄水場で働く人々は、一年中その機械を動かし続け、夜も交代で仕事をしているという。また、水を届けるまでの工程に関わるのは、浄水場の人々だけではない。他にも、毎日、水質の検査をする人、水道管が壊れるとすぐに修理をする人、人口の増加に伴って設備を新しくする人……。私たちの想像を絶するほどの人々が、安全な水を届けるまでに、日々、たゆまぬ努力を積み重ねている。そんな話を伺って、私は、はたと気がついた。以前、私が水の写真集を読んだ時、蛇口からしたたるしずくがひときわ美しく見えたのは、そのしずくが、多くの人々の努力や思いを含んでいたからではないだろうか。人間が使う水を届けるために、人間が水をきれいに、美しく生まれ変わらせる。浄水場だけでなく、汚水を浄化する浄化センターもそうだ。人間が使った水が、これらの施設によって生まれ変わり、生命の源となる。このような人々の努力の賜物である水は、やはり輝きを増すだろう。

古代から、水は、人々に寄り添ってきた。その証拠として、日本

神話には、何人も、水に関する神様が伝えられている。人間は、長きに渡って水の恩恵を受けてきた。しかし、水は、時に人間に牙を向く。大昔から、大雨、洪水、津波などの水災も、人間は受けてきた。それでも、人々は、そんな災厄をもたらす側面も受け入れ、様々な対策で工夫をこらし、水と寄り添ってきた。そして、古来から、神様として祀るほどに、恵みをもたらし、生命を育む水の美しさに魅了されていたのだ。

人間には、恵みの水が必要である。水資源豊かな日本とは違い、海の水でつながっている世界には、まだまだ汚水を綺麗にする技術がなかったり、水不足で苦しんだりしている国もある。世界中の人々が、ずっと美しい水を追い求めているのだ。けれども、地球上の水は無限ではない。そして、その中でも、人間が利用することができる水は、〇・〇一パーセントほどしかない。だから、水を廃棄物などで汚したり、無駄に多量に使用していると、この先の未来、水を永遠に手に入れるのが困難になるかもしれない。では、水を永遠に得るために、私たちに何ができるのだろうか。人々の努力のつまった水は美しい。昔の人々は水の偉大さに気がついてきた。これらのことから、私は、人々が水の持つ美しさ、私たちに恵みを与えてくれる偉大さを感じるべきだと思う。そして、その水の使い方を考え、天ぷらの油をそのまま流さないようにしたり、こまめな節水

を心がけたりする。根本的な考え方が変われば、水との接し方も変わる。毎日少しずつでも、そうした行動を積み重ねることで、水と寄り添う未来が輝くのではないだろうか。私たちは、これからも水と共に生きていく。だから私も、これからは水の美しさ、偉大さを感じ、水と共に歩む未来のためにできることを積み重ねていきたい。

優 秀 賞

すべての生命に関わる水

和歌山県立田辺中学校 三年

かもん みく
家門 美紅

が弾んだ。蛇口をひねり、ホースから飛び出てきた水をやった。土に染み込んで潤っているようだった。

五月の大型連休に入った頃、一つの軸にいくつかの黄色い花が咲いた。トマトを頬張る人の姿を思い浮かべると、待ち遠しかった。

連休明けの朝、私は寝坊をしたため、水やりの時間がなく、そのまま学校へ行ってしまった。

授業が終わってから帰宅した私はすぐにトマトの様子を見に行った。その瞬間、私は思わず肩を落とす。目に飛び込んできたのは、葉も花も軸の先もまるで全身の力が抜けたようなしおれた姿だった。触つてみると、しなやかで張りがなかった。

「しまった。どうしよう。」

「みずみずしい。」
私は手の平サイズのトマトを口にした。中から溢れ出る絶妙な甘さの液果が口の中いっぱい広がる。太陽のように赤いそのトマトは自然と私を笑顔にさせてくれる。

春から夏にかけて自分で育ててみたトマト。毎年、家の庭で野菜や花を育てている母を見て私も育ててみたくなった。

プランターを用意した私はそこに土を入れて苗を植えた。この苗が普段食べているような大きさのトマトまで育つと思うと胸

次の日の朝、もう一度見ると、昨日とは全然違う元気な姿だった。茎がピンと立ち、葉は青空へ向いている。根から十分な水を吸って生き返ったのだ。水によって成り立つ植物の生命に、大きな力が感じられた。

そして、梅雨が明けた頃、プランターに太陽のように大きく赤い実がなった。苗の時と比べて随分大きく成長した葉や茎、実を見ると嬉しくなった。

このトマトの栽培から、私は水の大切さについて学ぶ事ができた。人間が生きるには水が必要で、その人間が食べる食べ物も育つためには水が必要。全ての生命が水が必要としているこの世界では、誰もが水を大切にしていかなければならないと思った。

現在、世界では約十二億人の人達が安全な水を利用することができないといわれている。その人達のためにも、世界の環境のためにも安全な水を利用して頂いている私達が節水に取り組むべきだと考える。

例えば、食器を洗う時に必要以上の洗剤を使わないことだ。そうする事で、使う水量を抑える事ができると思う。他には、靴を洗う時にバケツに水をためてから洗う事だ。また、お風呂に入っている時、こまめにシャワーを止めると良いと思う。歯を磨く時も、コップに水を入れて磨くと良い。お手伝いで車を洗う時は水を出しっぱなしにしないようにしたいと思う。

このような節水に積極的に取り組む事で、少しずつ水の問題が解消されていくのではないかと考える。一人一人が意識していく事によって、大きな力となり限りある水が有効に使う事ができる

ようになるだろう。

私達の生活に欠かせない「水」。皆が考えて、お互いにきれいな水がいつまでも使えるようにしたい。そして、人間だけではなく、植物など、すべての生命が元気に生きていくよう、努力していくべきだと私は考える。

優 秀 賞

水の大切さ

和歌山県立向陽中学校 二年

とみなが はるな
富永 遥菜

すばらしいことだと思いました。

一日目の晩に家族で川の方へ行き、ホテルを見ることになりました。最初はそれほどいかなかったホテルが、時間がたつにつれてどんどん増えていきました。その景色は今まで見たことのないすばらしいものでした。ホテルは、私たちが住んでいる町ではなぜ見られないのかと思い、ホテルの生息条件を調べてみました。これは、ゲンジボタルの場合です。まず川底に石や砂があり、きれいな水がいとも流れているところが必要です。次に、川の周辺にホテルの住むことができる高い木や低い木がなくてはいけないそうです。さらに、卵やさなぎに成るための苔や木、やわらかい土も必要だそうです。他にもたくさんのお生息条件がありました。このような条件がそろって初めてホテルは生きていくことができます。

私は、去年家族でキャンプに行きました。そこには、飲み水の出る水道ときれいな川がありました。私たちは、念のために水を四リットル持っていきました。一泊二日だったので水は一日目の晩になくなってしまいました。次の日の朝からはキャンプ場にある水道の水をくみに行き使うことになりました。私たちがキャンプをしているところから水道まで百メートルほどしかありませんでした。しかし、何度も行き来するうちにしんどくなってきました。そのときに、水がなくては何もできないということを実感しました。普段蛇口をひねると水が出てくるのが当たり前だと思っていたけれどとても

私たちと水は切ってもきれない関係にあると思います。なぜなら、水がないと一週間も生きられず、死んでしまうからです。水なしの生活は考えられません。水道の蛇口をひねって水が出るという国はとも少なく、出てきても飲めるほどきれいにされていることは本当に少ないです。水がなくてはお風呂に入ることもできず、とても気分が悪くなる人が出てくるかもしれません。私たちにとって水は、第二の命といっても過言ではないほど大切な存在です。

キャンプ場で水をくみに行かなくてはいけない生活を二日間だ

けですが体験して、水のありがたさに気付くことができました。今でも学校に行けず水をくみに行っている子どもが世界中にたくさんいるので、少しでも負担を減らすことができると良いと思います。ホテルの美しさを見て、もっとたくさんところでホテルを見られるようになってほしいと思いました。そのために、日頃から排水口に流す水を少しでもきれいになるように、心がけていきたいです。日頃の小さな努力も積みかさなれば大きな功績につながると思えます。すると川に流れる水もきれいになり、ホテルの生息地域も増えていくと思います。私たちは水と共に生きていきます。飲みきることができなかつたお茶を捨てたり、水を流しっぱなしにしたりすると水を無駄にしていることとなります。少しの水でも無駄にしないように大切に、水に関わっていきたいと思いました。これらの人生、水と関わる時これが当たりまえと考えるのではなく、とてもありがたいこととして考えていきたいです。当たりまえになれず、しまわぬようにしたいと思いました。

潤いに満ちた未来を目指して

和歌山県立古佐田丘中学校 二年

石橋 いしばし

世菜 せな

日本に住んでいる私達は、簡単に水を手に入れることができる。それも安全である水が。私は、世界中のどこでもそれがあたりまえだと思っていた。蛇口をひねればすぐにきれいな水が出てきて、様々なことに思う存分使えるものだと思いついでいた。しかし、それはとんでもない誤解だった。

私は小学校の頃から外国に興味があった。そのため、外国についての本をいくつか読んでいた。そんな時私は、世界にはウガンダやカザフスタンなどの水を自由に使えない国もあると知った。技術が発達していないことなどが理由で環境破壊などによって汚染された水をやむなく飲んでいる人もいるという事実を知り、私は衝撃を受けた。みんながみんな安全な水を飲んでいるわけではなかったのだ。

また、私達日本のような、先進国と呼ばれる国が工場を次々と建てることなどによって環境破壊を進め、水を汚染してしまっているのにも関わらず、技術があまり発達しておらず、環境破壊など先進国ほど進めていない国が、汚染された水を飲んだために命を落としているということも知った。私はこれを知ったとき、水を汚染してしまったのは私達のような国なのだから、私達が何とかしなければならぬ。そう強く思った。でも、私に何ができるのだろうか。世界の現状を知っただけの私には、私に何ができるのか分からなかった。

しかし、私は世界の現状を知ると同時に、ユニセフという団体があるということも知った。ユニセフというのは国連機関の一つで、技術の発達していない国、つまり発展途上国の児童に援助を行っている団体だ。私に何

ができるだろうと考えていた私は、少しのお金をこの団体に寄付するだけで救われる人がいるのだと知り、自分にもできることがあるのだと嬉しく思った。このユニセフという団体では、集まった寄付金で安全な水を提供するというのもしている。つまり、少しのお金を寄付するだけで、汚染された水をやむなく飲んでいた人々に安全な水を提供する力になれるということだ。私は、水は安全であることが一番大切だと思う。安全は私達を健やかに育み、危険から守ってくれる。だから、きっと安全な水は世界の子どもたちを守り、育んでくれるだろう。そう願ひ、私は以前ユニセフに募金をした。

私は水について考えていくうちに、安全な水を世界中の人々が飲めるようにしたいのなら、まず世界の現状を知ることが大切だということに気付いた。そして、世界の現状を知った上で何かしたいと思う心を持ち、行動を起こすことが最も重要なのだということにも気付いた。どんなに大きな問題でも、必ず自分にできることがある。小さな力でも、積み重なれば大きな力になるのだ。

これからも、人が生きていく上で水は無くしてはならない存在で有り続けるだろう。しかし、そう簡単に世界中の人々が安全な水を口にできるようにはならないかもしれない。それでも、たくさんの人々が世界の現状を知り、一人一人が自分の小さな力を出し合えば、きっと世界中の人々が笑顔で安全な水を飲む日が来ると思う。

私達子供は、未来を担っている。つまり、世界中の全ての子供達がこれからの未来を造っていくことだ。未来を担う子供の一人として、私は世界の現状を知り、自分にできることを見つけ、行動を起こしていこうと思う。この決意と安全な水が世界中広まることを願ひ、潤いに満ちた未来を目指して。

水と生きる

和歌山県立田辺中学校 二年 金谷 ゆらかなたに

朝、蛇口からは透明の水があふれ出る。コップに注がれる水で一日が始まる。顔を洗う、歯を磨く、トイレに行く、ご飯を炊く、お茶を入れる、洗濯をする、お風呂に入る、また歯を磨く。私は毎日透明の水と一緒に過ごしていく。私はそれが透明で味も匂いも無いため、それがあることを取り立てて意識することなく、当たり前前にそれを使い、ましてや、いちいち感謝の気持ちなど持たないけれど、水は様々な場面で私の暮らしに恵みを与えてくれる。

平成二十三年、小学校へ入学する前の年、大きな災害が二つ起こった。

三月十一日、東日本大震災。テレビには、津波が大きく陸地に迫り、堤防を乗り越え、ゆつくりと釜石のまちをのみ込んで行く様子が何度も何度も写し出される。人々の恐怖や、驚きや、諦めの声と共に、水が町をのみ込んでいく様子がスローモーションのように何度も写し出される。

九月三日、その日から、強い雨が降りだす。八月二十五日に、発生した台風は、ゆつくり北へ、そして立ち止まり、またゆつくり動いたと思うと、立ち止まり、これを繰り返して四国へ上陸。東側の田辺には、二日間大雨が降り続いた。四日の朝、伏見野の山が崩れた。雨の水が山を動かし、家族五人が生き埋めになった。

津波と豪雨、水が凶器となつて、町を、暮らしを、人を、破壊した。逃げる以外、防ぐ手段を持たない私たちを、凶器となった水は壊していった。

そして、私たちの体。私たちの体の七十パーセントは、水でできている。赤ちゃんと至っては九十パーセント、体のほとんどは水である。私たちは、水で出来ていると言っても言い過ぎではない。

大きな力と大きな恵み、そして命の源。怖くて、ありがたくて、そして私そのものである水。「水」とはと考えていこうとしても、とても私の考えや理屈は及ばないところに、それはある。でも、私にもわかる確かなことはある。水とは、上手く付き合っていないければならないということである。

ただの大雨だったものが、豪雨や、ゲリラ豪雨に変わった原因は、地球温暖化であると言われている。また、水は空気と同じように、無限にあると錯覚されているが、実は、当たり前であるが、限りがある。人間の水分、元気でみずみずしく生きている世代は沢山持っているが、老人になるとどんどん減っていく、五十パーセントぐらいになってしまふ。

こうしたことを理解し、意識し、毎日生活していくことがまずの一步である。

私に出来ることはないのだろうか。地球温暖化の原因は、エネルギーに頼りすぎる私の暮らしにあるのではないだろうか。水不足の原因は、歯磨きの時に水道を止めない私にあるのではないだろうか。体のみずみずしさが無くなっていくのは、食べ物の好き嫌い、睡眠不足で早くなっていないだろうか。

怒らせて、暴れると、怖くても「水」に逆らうのではなく、水を使い、水を取り入れ、水と共に生きていく。私をもっと豊かに生きていくために、その事に気づかされたテーマだった。

自然の恵み

和歌山県立向陽中学校 二年 櫻井 なつき

木漏れ日に照らされ、きらめく一つの川。それはまるで一つの幻想画として写真におさめたようなものでした。上流から静かに、でも力強く流れる水に思わず圧倒されたこと。それは今でも私の心の中に強く印象に残っています。

夏の終わり、紀美野町にある川に家族と共に訪れました。空が澄み、よく晴れた日でした。川原に行くところには透明で透き通る水が流れていました。美しく清らかに流れる水は自然そのものでした。私はそこで初めて泳ぐという経験をえました。川に潜り、目を開く。すると、そこにはたくさん魚が優雅に楽しそうに泳いでいました。透明な川のおかげで私はたくさん魚と触れあうことができました。きっと魚や他の生き物たちもそうだと思います。綺麗なおかげで暮らしやすい、生きやすい毎日を送れているのだと思います。今、目を閉じてもすぐにその光景が思い出されます。自然の恵みの素晴らしさを身に染みて感じる日となりました。

今、日本の川は果たして全ての場所において綺麗だといえるでしょうか。私は言えないと思います。川に工業で使われた水が流れているのを時々、見かけるからです。私の町にはすぐに海とつながる川があります。でも、その川は決して綺麗と呼べるような川ではありません。色も濁っています。あの日、私が紀美野町の川と比べたら、魚も少ないと思います。改めて見ると、その違いに驚く一方、この状態を人間が作ってしまったということに悲しみや罪悪感を覚えます。決して魚や他の生き物にしろ、彼らは私たち人間に害を与えません。でも、人間は魚に害を及ぼしているという現状に至ってしまったのです。自分たちが生活していくには仕方のないこ

とだと考えて。私たちが生きていくうえで、幾つかの犠牲が必要となることは時にあるかもしれません。その一つとして工業用水を流すのも仕方のないことだと言えましょう。でも、人間はもっと環境に今の現状に向き合うべきではないでしょうか。最近、そのような課題に取り組もうという前向きな姿勢も見られます。私たち、ひとりひとりが向き合えばもっと良くなるはずなのです。しかし、一部の人間はしません。自分が使いたいように自然を利用します。

もし、今から水がこの世界から消えたらどうなるでしょう。水が飲めない、お風呂に入れない。つまり、衣食住の全てにおいて何もかもがなくなるのです。さらに、海も川も消え生き物さえもなくなります。すると人間はどうなるのでしょうか。そう、生きられなくなり、死ぬのです。だから水は全ての源なのです。限りある資源はいつかなくなります。今は遙か向こうの未来でも、いつかその時は訪れます。だからこそ私たちは全ての自然の恵みに感謝するべきなのです。

今、私たちが生きていけるのはなぜか。そう、自然があるからです。私たちが自然を利用するなら、お互いがいつまでも支え合うことができる関係でいる必要があります。全ての源は自然であること、人間が今まで時代を歩んでこれたのも、その考えを大切にしていたからです。自然の豊かな恵みに応え、私たちもサポートする。そうすることで地球という惑星が存在し続けられます。地球は「水の惑星」と呼ばれます。でも、そうであることも当たり前ではないのです。

私が実際に肌で水、自然を感じたからこそ自然へのありがたさを考えました。あの幻想画のような美しい光景を私は決して忘れません。その思いをこれからも抱き続けて生きていこうと私は心に誓いました。

水の旅

和歌山県立向陽中学校 二年

ふくだ 福田

ももか 桃花

「おにぎりを一個作るのに、どれだけの水が使われているか？——米作りから考えると、二百七十リットルもの水が必要です。それをパーチャルウォーターと呼ぶそうです。」

その言葉をテレビで耳にしたとき私は、ハッとしました。そんなことを今まで想像することがなかったからです。この言葉を知ってから、私は見えない水を想像するようになり、世界が広がったような気持ちになりました。私達が生活していくのに、水はかかせません。生活ひとつひとつどれをとってもパーチャルウォーターは果てしなく必要です。私達は朝起きてから、顔を洗い、うがいをし、朝ご飯を食べ、歯みがきをし、トイレに行き、水を飲み……と朝の一、二時間だけでも、大量の水を使用しています。一日分となるとどのくらいものすごい量になるのだろうかと思いましたが、調べてみたところ、日本の生活水の一人一日の平均使用量は三百四リットルだといわれています。それにパーチャルウォーターまで含めると日本人が一日に消費している水は平均して三千リットルになるそうです。私は気が遠くなるような数字に驚いてしまいました。

水は人の体重の約六十五パーセントを占めています。人は体内の二十パーセントの水が失われると生きていけないそうです。また、水を一滴も飲まないで四、五日で死んでしまいます。水は私達の生活において、必要不可欠なものであり、人は水と共に生きていくのです。そんな水を私達に届けてくれているのは川であり、その川の水を支えているのがダムです。ダムは日本に三千万以上あるそうです。ダムは山に降った大雨を一時的にせき止め、洪水を防いだり、水をためておいて、川の水が足りなくなりそ

うなときに川に水を流して濁水が起らないようにしたり、ためている水で発電するなどの大きな役割を果たしているのです。

数年前、台風が上陸し洪水が起きて私達の住む地域でも家が浸水しました。台風は大きな被害をもたらします。でも台風があるからこそ地球規模でいろいろなバランスが保たれている側面もあるそうです。例えば熱や水の輸送があります。あれだけ大量の熱や水を人間が短時間で輸送することはできません。もし、台風が熱を熱帯地方から運んでくれないければ、寒帯地方はもっと寒く、熱帯地方はもっと暑くなって人間の住める範囲は今より狭くなると思われています。また、年間降水量の多くを支えている台風がなくなると、濁水が起きると考えられます。

私の祖母の家はみかん農家で、祖父は夏に日照りがつづいた時、いつもみかんが枯れないか心配して水まきをしています。祖父の家の近くにはいくつものため池があります。ため池の水は、飲み水や農業用にも使用されています。それは、昔から水と共に生きてきた私達の祖先が考えた知恵がたまっているのだと思いました。

水と共に生きる知恵は現代にいたるまでどんどん発展してきました。水を利用するためにダムなどの施設を建設したり、運用、管理している人達や、私達が使った水をきれいにし、自然に返すための仕事をしてくれている人達がいます。このような人達に支えられて私達は毎日安心して水を使うことができます。あたり前の日常だと思っていました。とてもありがたいことだと思いました。これからは水は限りある資源であることを忘れずに大切に使いたいです。節水について調べると、お風呂の残り湯は、庭の水やりや洗濯に使ったり、蛇口をこまめに開け閉めすることなどが節水につながります。小さなことからですが、私も水を大切に暮らしていきたいです。小さな歩でも毎日続けられれば大きな一歩になると思ってしまうに呼びかけることでどんどん大きな輪になればいいなと思いました。

命の重さと水災害の怖さ

和歌山信愛中学校 一年 松本 まつもと 麻椰 まや

「気持ちいい。」

私は毎年暑い夏に入るプールをとても楽しみにしている。水が冷たく体温を下げてくれる。小学四年生の時、私は学校でおぼれた人を見かけた時の助け方や水におぼれた時の泳ぎ方を習った。しかし私は水なんて怖くないでしょう。死んだり、大きいけがをしたりなんか水だけで shouldn't と思うていた。あの災害が起こる前までは。

小学六年生の夏休み前。その年は地球温暖化が進んでいるせいか例年より暑く感じた。友達と夏休みを目前に遊ぶ約束などをしていった。

七月のある日、私は朝起きると強めの雨がザーザーと降っていた。ニュースをつけると私の住んでいる岡山県は時間が経つにつれて降水量を表す色が青から赤へと変わっていく。晴れの国、岡山と言われるほどの県でこんなにも強い雨がふるなんてめずらしいな。そう思いながらも明日にはやむだろうと思っていた。

しかし、その日の夜雷はまるで昼のように明るく光り雨は地面をたたきつけるように降り続けていた。流石に私も少し心配になってテレビをつけると岡山県に避難指示が出されていた。私の通っていた小学校も避難所になつていた。学校のみんなは大丈夫かな？そう思いながら寝た。

次の日の朝、ニュースをつけると私の体に衝撃が走った。テレビに映っていたのは茶色くにごった水が住宅の二階までつかり人々は屋根の上に乗って必死に助けを求めている。私の住んでいる街の道は水につきり、近く

の山は土砂くずれを起こしていた。

学校に行くとき家に土砂が入ってきたという子、道に岩があったという子、被害にあった友達も多くいた。死者二百二十七人にもものぼる記録的豪雨となつた。

真備町に父がボランテアに行った。帰ってきた父はどろだらけで、病院にも砂やどろが入っていて仮設住宅で暮らしている人が多くいるといった。

水に対していいイメージしか持っていなかった私は水についてその出来事があったから真剣に考えるようになった。

水は人間にとって不可欠であるが、その水は自然のもの。自然災害はとめられず、人の命をうばうこともできる。

だから、私は自然災害は止められないけれど、学校で習った事を生かしてどうすればよいかを判断できるようにになりたいなと思った。

また、今回この災害を経験した人として私の思いを次の世代の人達にも伝えていきたい。

「地球を守る水」の現状

和歌山県立田辺中学校 三年 朝間 あさま 聖菜 せな

部活の休憩時間、私がいつも真っ先に向かうのは、冷水機だ。「美味しい生き返る〜」

水は、部活や勉強などで疲れ果てた体を癒し潤してくれる、最高の飲み物だ。特に水道水は、今の私たちにとって一番身近で必要不可欠なものだと思う。日本では、そんな安全で美味しい水が蛇口を捻るだけで出てくる。

その水は、飲むだけでなく、調理、風呂、トイレ、洗濯など、私たちの生活で重大な役割りを果たしている。しかし、他の国は、それが当たり前なことではないのだ。私がそれを実感できたのは、中学一年生の時だった。

今から約一年半前、私は初の海外旅行で台湾へ行った。その時、ガイドさんに一番注意されたことが「水道水は絶対に飲まないで下さい。できれば歯みがきをする際の使用もひかえて下さい。」ということだった。それを聞いた私は「日本では水道水は飲めるのに、なぜ海外では飲めないのだろう。そんなに汚いのかな。」と疑問をいだいた。その後、手を洗うため一度蛇口を捻ってみたが、臭いも気になる程ではなく、色も日本と変わらずきれいだった。ますます疑問が膨らんでいった。

日本に帰ると、早速そのことについて調べてみた。なんと、蛇口から安全な水が出る国は、百九十六か国の内、十五か国しかないそうだ。その国のほとんどがヨーロッパで、アジアでは日本とアラブ首長国連邦の二国の

みらしい。また、安全な水を確保できず苦しんでいる人は、世界で六億人以上いるそうだ。私はその記事を読んでとても驚いた。日本がどれだけ恵まれているか、改めて感じる事ができた。

海外の水が安全でない主な理由として、まず「上下水道がしっかり整備されていない」ということが挙げられる。また、「水道水は飲料の基準を超えていても、水道管が古く、衛生的に水を届けることが難しい」というのも理由の一つだそうだ。もし、どうしても飲まなくてはいけない場合は、ろ過をしてさらに五分以上熱する必要があるそうだ。日本ではそんなことをする必要はまずないだろう。

では、逆に、日本の水がここまで安全なのはどうしてだろう。その理由はずばり「水質基準がとても厳しいから」である。なんと私達の家庭に届けられている水道水は、水質基準五十以上の項目をクリアしている「超」安全な水なのだ。

私はさまざまな記事を読み、「蛇口を捻れば安全で美味しい水が出てくる」というのは決して当たり前なことではないということに気付かされた。私たち日本人にとっては当たり前なことだが、その当たり前なことへの感謝を日頃から忘れてはならないと思う。今、私たちがこうしているうちにも、安全な水が確保できなくて苦しんでいる人はたくさんいる。まだ中学生である私にできることは、ほとんどないと思うが「安全できれいな水が蛇口を捻るだけで出てくる」という当たり前前のように当たり前ではないことへのありがたさを忘れずにしようと思う。

私たちの生活と水

和歌山県立田辺中学校 三年 神野 アユミ かみの

昔から、人々の生活と水は大きく関わってきました。それを証明するよ
うに、地球は「水の惑星」と呼ばれています。水について表す言葉や漢字
は数え切れないほどありますし、これらを知らず知らずのうちに使ってい
ることでしょう。また、日本に暮らす私たちは、のどが渴いた時に身近に
ある蛇口をひねるだけで、安全でおいしい水が飲めます。しかし、世界
中には安心して水道水が飲めない国がたくさんあるのです。なぜ日本では、
当たり前のようにして水を飲むことができるのでしょうか。

私は、二つの理由があると考えます。

一つは、日本の自然が美しいからです。どこに行っても多くの魚が住む
海が見られるうえ、たくさん山があります。このことで、ダムが設置し
やすく、水環境が整うのではないかと考えました。

二つ目は、降水量が多いからです。温帯である日本では、雨がよく降
ります。一年のうちで、「梅雨」という時期があるくらいです。また、台風
の影響を受けやすい国であるため、夏や秋は、降水量がよく増えること
があります。これによって、多くの地域で水不足になることはあまりあり
ません。

一度、母の友人である海外の方が家にいらっしやったことがありまし
た。その方にお飲み物を出した後、私は水道水をコップにくんで部屋に
戻ろうとしていましたが、この時に

「やめておいた方がよいよ。」

と心配そうな顔で止められたのです。私には何のことか分かりません
でした。話を聞いてみると、この方の住んでいる国では、水道水の塩素が強く、

水環境が良いとは言えないため、一般的に水道水は飲むものではなかつ
たそうです。「ならばどのようにして水を飲むのか。」と気になって尋ねて
みると、

「ミネラルウォーターをスーパーで定期的に買うのよ。」

と教えていただきました。私は、蛇口から出る水を飲むことは当たり前
ではないのだと気づき、驚きました。これと同時に、日本には茶を飲む慣習
があるので、水への関心があまりにも薄すぎるのではないかと思いました。
しかし近年、水に注目が集まっているそうです。水には体温調節をした
り、老廃物の排泄したりする役割があるため、美容や健康に良いとされ
ています。ダイエツト方法の一つとしても広く知られているようです。

調べていく中で、水にも種類があることが分かりました。水道水は、
国によって定められた安全基準に基づき、塩素で殺菌消毒されて、私
たちの元に届くものです。他には、ミネラル豊富な天然水、不純物が
一切除去された純水などがあります。ちなみに、日本の上水道普及率は
他の国々と比べて高く、水道水は世界最高水準と言われています。

では、なぜ日本の水道水の品質は良いのでしょうか。

水道水が飲める国は、世界中で十五カ国しかありません。その中に
アジア諸国は二カ国しか含まれていません。先程紹介しましたが、水道
水には安全基準があります。この安全基準も厳しく定められているよ
うで、五項目の基準をクリアしないとダメです。しかしこの中でも、私
たちには透明で澄んだ水が届きます。険しい道のりを越えた水が、私
たち日本人が普段飲む水道水なのです。

改めて水について調べたり考えたりしてみると、新しい発見がたく
さんありました。自分が何気なく飲んでる水は、厳しい基準をクリア
した世界最高水準のものなんだと思うと何だか不思議な感じがしまし
た。

水に注目が高まる今日も、日本の水道水の素晴らしさを知る人は
そう多くはないと思います。そんな方々にも良さを知っていただきたい
です。そして十年後も百年後も飲めるよう、日本の水を守っていき
たいと思います。

命と水のかかわり

和歌山県立向陽中学校 二年

佐原

花音

水はたくさんさんの生命を維持するためには欠かせないものです。川、海、湖。「水の惑星」である地球は水によって支えられていると言っても過言ではないと思います。そんな生命を育む水は時として町を飲み込み、教えきれないほどの生命をうばい、人々を悲しみの沼へとおとし入れます。

私の住む和歌山県有田市を南北に分ける有田川。普段はみかんの名産地である有田の地に美しい水を運んでくれる、恵みの川です。

「有田の水はきれいやさかい、安心して飲めるんよ。」

と祖母は言います。浄水場を訪れた際にも、

「有田川の水はきれいなので、薬品は一種類しか使っていないんですよ。」と聞きました。

そんな有田川が今から約六十五年前に氾濫したことがありました。私の祖父母が小学生のころの話です。

二日にわたって降った雨は、川からあふれ出し、様々なものを飲み込んでいきました。橋、小学校、民家。水はかなりの高さまでせまったと言います。祖母は、

「もう怖くて、怖くて。近所の人たちと必死で山の方向いて走ったんよ。

水もひいて、町へもどってもいろんなものがぐちゃぐちゃになって、もうそれはひどいことやったわ。」

と、話していました。

このような水害を後の世代に語ろうということで、私の通っていた小学

校ではこのことを授業として扱っています。町の中には慰霊塔や最高水位表まであります。この水害で亡くなった方は有田市の中で五十一人、行方不明者は百十人にもなります。また、被害をうけた家屋も少なくありません。しかし、そのような状況の中で、お米を炊いたり、料理をするために使用したのも水でした。

有田川のそばの山々にある有田みかんの段々畑には、夏になると、スプリングラーでシュッシュッと水がまかれます。その水もやはり、有田川のものです。

「有田のみかんはおいしいね。」

というんな人が言ってくれます。みずみずしくて甘いみかんもまた、水が育んでいるのです。

水は世界のありとあらゆるところに存在しています。しかし、飲むことのできる水はほんのわずかです。そんな中、津波や洪水など日本では水による災害がたくさん起こっています。「生命をうばっていく。」それもまた、水の正体であるということを有田から学ぶことができました。

しかし、「生命を育む。」のも水です。水は他の物質とは異なる性質——固体が液体よりも密度低いなど——を持ちます。そんな特別な水だからこそ、私たちの生命は地球というちっぽけな星で輝いているのだと思います。

約六十五年前に有田市でおきた洪水は、私たちに水のおそろしさ、また、同時に水のすばらしさも教えてくれました。今日も有田川は海へと流れていきます。アユを上流まで運び、夏になるとみかんを育て、ある時は私たちの中へと入ってきます。そんな水を、有田川を、私は一生宝物として大切にしていきたいと思います。

水は大切な物

海南市立下津第一中学校

一年

竹中

大喜

たけなか だいき

水は、いくらでも出てきて、いくらでも使えるところは思っていた。しかし、ある三つの出来事で多くの考えは変わっていった。

一つ目は、三年ほど前に起こった熊本地震だ。震度が最高七ほどの地震が熊本県を中心とした九州地方で起きた。新聞やニュースを見ると、水や電気などのライフラインが使えなくなっているということを知った。水道から当たり前のように出てくるあの水が使えなくなるといふ大変さをぼくは考えた。飲み水やお風呂の水、トイレを流すための水などがなくなるといふことだ。自分達が生きていくために欠かせないことが出来なくなり、とても不便な生活をするようになることをテレビの画面から感じる事ができた。もし、自分自身が実際に大きな災害を経験した時にどういう風になつてしまうのかを考えさせられた出来事だった。

二つ目は、六年生の理科で「自然とともに生きる」という単元を習ったことだ。身の回りの水のじゅんかんや、人と環境との関わりを確かめながら、自然とともに生きるために、自分はどうなことが出来るのかを考えさせられた。例えば、水の節約やきたない水をシンクに流さないなど、簡単に出来ることが多い。これをするだけで環境を守れるので、これからしていきたいと思つた。そうすることで、海や川にすんでいる生き物を守ることにつながることが分かった。

三つ目は、きれいな水を飲めていない人がたくさんいるということを知つた時だ。日本で住んでいるわたしたちは、きれいで安全な水を飲むことができる。しかし、外国では、きれいな水を飲めずにきんの入ったきたない水を飲んでる人がたくさんいる。しかし、きれいな水を飲みたく

てもお金や技術が無く、整備ができない。そのために日本や様々な国がきれいな水を飲めない国を助けるためにボランティア活動として現地に行き、井戸をほったり木を植えたりして、きれいな水を飲めるように活動している。また、現地に行けなくても募金をしたりしてその国を支援している人がたくさんいる。そういういろんな人の支援によって、きれいな水を飲める人がいる。だから、ぼくも水の大切さを知り、大事にしていこうと思つた。

ここまで大きく三つの出来事について書いてきた。「地震や災害」、「水のじゅんかん」、「世界の水の問題」などを通じてぼくが感じたことは、ぼく達は水に恵まれた国に住んでいるのだなあとということ。そして、一人一人の努力が日本の水のきれいさを保つたために必要ということだ。また、平成から令和に変わつても安全できれいな水が自由に使えるような社会が続くように、自分には何が出来るのかを改めて考えていきたいと思う。その考えたことを実践して、日本の水のため、世界の水のために、自分のしていきたいです。水に感謝をして、飲んだり、家事をしたりしていきたいです。

限りある資源を大切に

和歌山県立向陽中学校 二年 寺岡 昊汰

てらおか こうた

僕たちは普段、当たり前のように水を使っています。それは、ダムや浄水場などの水を利用するための施設や携わっている人たちのおかげです。しかし、世界にはまだまだ水を安心して使うことができる国が少ないことも確かです。その国の人々に恥じぬよう、僕たちは水を大切に扱うことが大切だと考えます。

僕たちが普段使っている水は、川や地下水、海などから取り込まれた水を浄水機で綺麗にし、配水管などを通って家庭に届いています。僕はそのことを小学四年生の頃に知りました。それまでの僕は、水がどこから来ているかも知らず、周りが節水する理由もよく分かっていませんでした。あまりにも周りが節水を心がけているので、なぜそのようなことをするのか自分の親に聞いてみることにしました。父は、

「日本では蛇口をひねれば水がでてくるだろ。でもな、世界ではそういう国はとて少ないんだ。それなのに、自分たちは何の遠慮もせずに水を使っている。それどころか、無駄に水を使ってしまうこともある。それは、水が手軽に手に入らない人たちに失礼じゃないかな。」

と父は言い、僕もそれに納得しました。後で調べてわかったのですが、節水することは二酸化炭素の削減にもなり、地球温暖化の防止にもなるそうです。浄水場で水を綺麗にする際に機械を使うのですが、その機械を動かす時に電気が必要となります。使用する水の量を減らす(無駄をなくす)ことが、機械が使用する電気の量を減らすことになる。というメカニズムです。

父の言葉を聞いた僕は、さっそく節水に取り掛かったのですが、「節水」

は何をするのかということにあまりピンときていませんでした。手を洗う際に出る水の無駄を減らすということは出来たのですが、それ以外に何が出来るのかわからなかったからです。インターネットを使って調べてみると、お風呂の際にシャワーをこまめに止めることや、洗濯する時にお風呂の残り湯を使うことも節水につながるということがわかりました。

僕たちの生活には、自分が思っているよりも水が深く関わっています。水筒に入れるお茶はもと水水道水ですし、料理をする際にも必ずといっていいほど水を使います。もしも断水が起こったら、今までの生活からでは考えられないほど水が大切だという事を身を持って知ることになります。つまり、今の自分たちの生活には水がかせないということです。

僕がこの学校に入学してから、「環境学」という授業で水について学んだのですが、世界の水のうち、ほとんどが海水であること、日本は降水量が多い割に使える水の量が少ないことを初めて知りました。それを知った時はとても驚きましたが、限りある資源を大切に、無駄にしないように使おうということも考えました。僕たちは今、水を無駄に使わないようにすることが最も大事なことではないでしょうか。また、個人個人が出来る節水の取り組みを自分から始めることも大事なことではないでしょうか。こうした小さい努力をつみ重ねた先に、明るい未来が待っているのではないかと考えます。

水は、料理に使ったり洗濯に使ったりと、今では、僕たちの生活には絶対に欠かせません。そんな大切な水を、これから自分たちが無駄にしないようにすることが大事なのだと思います。限りある大切な資源を、これからも大切に使っていきたいです。

身近な水の大切さ

和歌山県立田辺中学校

一年

寺段

愛良

てらだん

あいら

わたしたちの身の回りにはたくさんの水があります。川の水、海の水、水道水。水道から出るきれいな水はどこからやってくるのでしょうか。そのままでは飲めない川の水を浄水場できれいな水にし、ポンプで送り出して水道管を通り蛇口まで届けられます。日常生活を振り返ると、まず、朝起きてトイレに行きます。レバーをひねると水が流れる。そして、手を洗

う時蛇口をひねると水が出る。食事の際は、飯は、米を水で炊いたもの、みそ汁の水分は元は水、お茶は茶葉を入れてわかしたものである。おかずになる魚や肉も生きている間に水を必要としたものであり、当然野菜も水がなければ枯れてしまう。それらを私が摂取し、私の体の中であらたな水となる。風呂に入ると、浴槽に湯がはられ、シャワーで体や髪を洗う。歯みがきにも当然水を使い嗽を行う。そして、寝る。母が、私が食べた食器を洗い、着ていた服を洗う。その時にも水がある。このように、一日を振り返るだけで、私がいかに水の恩恵を受けているのかが分かる。私一人で一体どれだけの水を一日に使っているのか、それを一年、十年と使っている事を考えるだけで、想像を超える量である事に驚き、家族全員、日本の人口、世界とスケールを大きくすると、それだけの水が今まで途切れることなく身近な存在であるという奇跡に感動する。それと同時に大きな不安を感じた。この当たり前の存在と化している水が今後同じような状態で私達にとって身近なものとして存在出来るのかという事を。当然誰もが考えなければなりません。水は限りある資源なのです。だからこそ私達一人一人が水を大切にすることが必要なのです。日本では、蛇口をひねり出てきた水を、何のためらいもなく飲むことが出来ます。しかし、外国では、蛇口

から出る水を直接飲む事が出来ない国も多いのです。さらに、蛇口をひねると水が出る事すら知らない国もあるのです。その人達は、水を手に入れる為に、長い道のりを歩き、たどりついた先にある水たまりの様な所で水をくみ、それを容器に入れ使用するのです。日本人から見るとその水は飲み水には見えない状態でも、その国の人達にとっては何に変える事も出来ない貴重な水なのです。そのような状況を知った時、水に対する価値の違いが国で大きく違う事へのおどろきとともに、心に複雑な気持ちが沸き上がった。貴重な存在と大切に使用される水と、当たり前前に存在し、それがさも当然と思われれる水に対する価値を考えた時私は、そこまで貴重な存在であると思ってしまう事が出来ていたのだろうか。水を大切にすることがどうすることなのか、あらためて考えるきっかけとなりました。

身近な水を考えて時、あまりにも当たり前前な存在であることから、その存在意義を考え、振り返ることなく過ごしていたことに気付きました。そしてあらためて貴重な水をこれからの未来につなげていけるように、私は私の出来る範囲で節水に取り組んでいこうと心に決めました。

水不足と海

田辺市立秋津川中学校 二年 堂柿 颯太
どうがき そうた

日本は水が豊富で、生活の中で水に困る事はほとんどないと思います。でも外国では水不足が深刻な国があります。僕は海には海水が沢山あるので、海水を淡水化できれば水不足が解消されるかもしれないと思いました。なので、その方法を調べてみました。

今主流となっている技術は二つで、多段フラッシュ方式と逆浸透法です。多段フラッシュ方式は、海水を熱して沸騰させて、水蒸気に変えて回収すると科学的に純度の高い水、いわゆる蒸留水が得られます。しかし大量の海水を沸騰させるには、大量の燃料が必要になります。しかし、その一方で蒸発した水蒸気を回収するのは大変で、苦勞する割にはたいした量が集まりません。僕が多段フラッシュ方式を調べてみて思ったことは、蒸発させるのに大量のエネルギーがいり、回収も大変だと分かったので、もっと効率よく蒸発させる方法があればいいのと思いました。

逆浸透法では、逆浸透膜と呼ばれる特殊な膜を使います。この膜は水の分子は通しますが塩素やナトリウムなどの原子は通さないで、そこに強い圧力をかけて海水を通して塩分等を取り除きます。この技術は淡水化もできますが、細菌やウイルスなどもろ過できるため、「水の殺菌」という意味でも使われています。当然特別な装置と、高い整備コストがかかります。僕はとてつごい技術なので、もっと低価格でできるようになればいいと思います。

海水から淡水化できるか調べてみて、大量のエネルギーと高い整備コストがかかる事が分かりました。でもいつか技術がすすんで手軽に淡水化できるようになって、水不足が解消されたいと思いました。

そして海水から淡水化を調べてみて、海の水質汚染も深刻な問題になっている事が分かりました。僕が気になったのは、海に捨てられている大量のプラスチックゴミです。すでに海に存在しているプラスチックゴミは、一億五千万トンと言われていて、そこに少なくとも年間八百万トンが新たに流入すると推定されているそうです。そして三十年後には、魚の数よりプラスチックゴミの量の方が上回ると推定されています。僕はプラスチックゴミが思っていたよりはるかに多くて、いつか魚の数を上回るほどの量になることとても驚きました。

プラスチックは物質として残りやすく、数百年間もの長い時間ゴミとして海を漂います。そして漂う内に細かくちぎれたりくだけたりして、とても小さくなったのがマイクロプラスチックです。マイクロプラスチックは生物の中に入り、残り続けて悪影響を及ぼす可能性があります。僕はマイクロプラスチックの事を今まで知りませんでした。これ以上増えたら大変なことになるので、今後少しでも減っていったら良いと思います。そしてプラスチックを減らすために、代わりになる物を考えてみたいと思いました。

水不足を解消する方法を考えるために海水を調べてみて、海水を淡水化するだけでなく、海の水質汚染も深刻な問題だと分かりました。今僕ができることは、プラスチックゴミをできるだけ出さないようにして、海に出るプラスチックゴミを少しでも減らしていくことだと思いました。

きれいな水を残すために

和歌山県立田辺中学校 三年 濱口 姫生

はまぐち ひなり

私たちの生活で使い終わった油をそのまま流したことはないだろうか。これくらい大丈夫と思えたのは、自分一人が流したところで何も変わらな
いと考えてきたからである。私が水について考えるきっかけとなった出来
事がある。

私は小学生のころ社会科見学で地域の浄水場を訪れた。川から引いた水
は石や砂で何度もろ過されるそうだ。そしてごみを取り除いた水は消毒さ
れてから私たちの口に入る。消毒に使う薬品は有害なので水の汚れの程度
によって量を調節しているようだ。水が汚くなると当然薬品の量は増える。
私たちの地域の水はまだきれいなほうだが、この薬品によって安全が守ら
れていると思うと少し怖い気もした。

一方、私の曾祖父父母の家で使われている水は山の水をタンクにため、ろ
過してひいている。地域の人たちと共同で使っているタンクなのでタンク
の中の水がなくなってしまうように注意して使ったり、交代でタンク
の掃除をしたりしなければならぬ。しかし山の水は栄養がたくさん溶け
ているようで、夏でも水が冷たくておいしかった。いつも茶がゆを作っ
てくれたが、水の良さと格別のおいしさだった。

このような自然の水を守るために私たちができること。歯みがきをする
時にコップを使う。シャワーを使わず、湯船のお湯で体を洗う。使わない
ときはこまめに水を止める。一体いくつ実践できているだろうか。私は曾
祖父父母の家にいく度に、小学校のころの社会科見学を思い出す度に「私に
もできる事」を考える。考えてやろうと思う。でも、それだけだった。い

つも行動に移そうと考えても一日たてば忘れてしまっていた。「私にもでき
る」ことなのになく思っていたのだ。

では、なぜすぐに忘れてしまうのか。私は水があることに対する意識の
低さからではないかと思う。地球は水の惑星とも呼ばれるほど水が豊富な
惑星である。また、日本はいつでもどこでも蛇口をひねればきれいな水が
でてくる。蛇口の水を飲める国は世界でも日本を含め十五カ国しかないそ
うだ。そんな恵まれた環境で生活しているからこそいつでも水を使えるこ
とに対する感謝が忘れられているのではないだろうか。

先日、あらためて水のありがたさに気づかされることがあった。台所の
水道が水漏れをし工事のため一週間程度だが、水道が使えなくなったのだ。
食器が洗えないため、食事はスーパのお惣菜や外食が多くなった。また、
のどが渴いてお茶を飲んでもコップ一つ洗えなかった。今まで身近にある
からこそ感じなかった水のありがたさを痛感した。

いつも私たちのそばにある水。水が使えなかった一週間を心に刻み、感
謝を忘れずに生活したいと思う。節水と考えるとつい忘れてしまいがちだ
が、水に感謝する気持ちがあるとのおのずと無駄遣いや水を汚すような行動
はなくなるのではないだろうか。きれいな水を後世に残していくためにま
ずすべき事は、一人一人が生活をふり返り、水のありがたさをあらため
て感じることである。

水と生きるためにある物

和歌山市立加太中学校 三年 榎岡 丈太郎
ますおか じょうたろう

水は、僕たちが住む場所に、あたりまえのように存在しています。水は、飲む物として、そして、洗濯や、風呂などの生活用水として多く使われています。この水を、無くすことなく、そして、安全に使えるのは、ダムなどのお陰だと思っています。

ダムの役割は四つ、洪水調節、水資源の確保、発電、河川環境の保全です。この四つの役割が無くては、人の生活に支障を出します。

洪水調節がないと、大雨や、台風がやってきた時に、川が氾濫を起こします。

そして、水資源を確保できないと、水道用水、工業用水、農業用水が全くなくなります。特に、農業用水が無くなると、農作物が作れなくなってしまうので、食料難にも、つながります。

ダムは、造るのにもお金と労力がかかってしまいます。ですが、ダムを造ることによって、人々の生活は大きく変わっているのだと思います。

しかし、水は、時に人に被害を出すこともあります。最近あった関西大豪雨。このことによって、電気が止まり、関西国際空港などの交通手段も使えなくなりました。

そして、東日本大震災では、津波が起こり、たくさんの方の死傷者を出しました。僕の勝手なイメージですが、東日本大震災でのことは、「地震」というよりも、「津波」というイメージの方が大きいです。

こういう自然災害での被害は、仕方のないことだと思います。水と身近に接しているということは、その分の危険も背負うことだと思うからです。

しかし、大雨などで山に降った雨の多くは、ダムで止められます。このことによって、川の氾濫や、川沿い付近での土砂くずれなどはある程度防ぐことが出来ます。このことは、少しのことかもしれないですが、ダムがあるとないとは大きな違いが生まれます。

山は、緑のダムと呼ばれています。山に雨が降り、水が流れていくのを地面で吸収し、そして少しづつ川に流すことによって川の氾濫などを止めています。しかし、人が山の木を切って、木がなくなってしまうと、雨が降って吸収した時に、木の根が無いので、土砂くずれを起こしてしまいます。

木は、人が住む家を造るのには必要なものです。

しかし、その木を手に入れるために、人に被害を出してはいけないと思います。

これからは、もつと木を切るたびに木を植えるべきだと思います。

日本では、蛇口をひねると、水がでてきます。この水は、水道を通じて分けあたえてもらっている物です。ですが、もつと便利にならないでしょうか。

自分の家で日光のエネルギーを使った発電ができる現在、自分の家で、降った雨をろ過し、生活用水として使えるようにできないものでしょうか。

なんだか、僕が大人になるころには出来ているような気がします。

水は、人が生きることには必要不可欠な存在です。ですが、水という存在は、時に人に牙をむき、人を殺すこともあるということを忘れてはいけません。

佳作

水を守るため

和歌山信愛中学校

一年

山本

遥奈

やまもと

はるな

「水」と聞いて、私が一番最初に思い浮かべたことは川や海の水だ。

私の家の近くには「和田川」という一級河川が流れている。その川は母が子供のころは生物が死んで浮かんでいるほど汚れていたらしく、川にかかる橋を渡るだけで臭い匂いがしたそう。祖母の子供のころは、シジミを採って食べるのができたり、泳げるくらいきれいな川だったという。今はどうなのだろう。私は自転車に乗って見に行ってみた。今は魚や亀がわずかに生息しているのが見える。

私は不思議に思った。母の時代に汚れていた川は、今はもっと汚くなっ
ていてもおかしくないと思ったからだ。人間が生活し続けている限り、水
は汚され続けているはずだろうからだ。小学校でも習った。私はショック
だった。そして、それと共に川や海をできるだけ汚さないために色々なこ
とを考えた。例えばゴミはゴミ箱へ、ゴミは分別する、ゴミは落ちていた
ら拾うなどとたくさん習った。こんなことをいつも意識している人達がい
るからこそまた少しづつだが昔のきれいな川にもどっているのだと思う。

私も、近所の小さな川の溝掃除を地区の活動で毎年行っている。初めて
参加した時は、何をしていたのか分からず「面倒だな」と思った。でも一
生懸命頑張つて掃除をすると初めは茶色く濁っていて水草だらけだった溝
が、草をかって、泥をかいて、ゴミを拾うと水が透き通るほどきれいにな
り、ザリガニやメダカ、オタマジャクシなど、小さな生物も集まってきて
気持ち良さそうに泳いでいた。私はそれを見て汗水垂らして頑張ったか
いがあったと思った。でもそのように水が透き通っていることが本来の川
の姿なのである。私はどれだけ人間が汚したかが良く分かった。

水は、皆が必要としている。今思えば、水と言うものはとても重要な役
割をしているのだ。水は命のつながりそのものだ。だから水を大切にして、
川や海が昔のようにまた泳げる程きれいになってほしい。そのためには皆
一人一人が協力しないとできない。誰かがやってくれると思っ
てはダメだ。一人一人がきれいにするといい目標をもちそのために色々実行して
いくことが大切になっていく。そして私達の世代はまた次の世代へと伝
えていかないといけない。もう母の時代の時のように汚くて、生き物が死
んで浮かんでいるような川には二度とならないよう私達が守っていかなくて
はならないのだ。

第41回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第43回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073(441)2423
- ⑤応募期間・・・令和元年5月9日締切り
- ⑥著作権等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募結果

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
11	489	194	210	85

3 審査

和歌山県審査において、優秀賞3編、入選5編、佳作10編あわせて18編の入賞作文を決定。

（協力 和歌山市中学校国語教育研究会）

4 表彰

（1）賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

（2）表彰式

優秀賞の受賞者を令和元年8月6日、和歌山県庁において表彰

私
たち
を
支
え
る
水
。
考
え
て
み
ま
せ
ん
か
訪
ね
て
み
ま
せ
ん
か



福島県安積原水

安積原水(福島県)。今から約150年前、江戸から明治に時代が変わる頃、日本は激しい変動期を迎えました。平毛の大地だった安積原野(今の郡山市のあたり)は、大規模な農業用水開削によって、鎌倉代斯の水が引かれ、豊かな農地に生まれ変わりました。そこは、失業した武士が働く場所でもありました。そんな、水と人と大地の歴史を振り返りに行きませんか。

2019年6日本「水の天使」
谷 穂子

8月1日は 水の日

水循環基本法に基づき8月1日が「水の日」と定められました。
8月1日から8月7日は「水の週間」です。

Under the Basic Act on the Water Cycle, August 1st was declared as Water Day.
'Water Week' is between August 1st and 7th of each year.

「水の日・水の週間」関連情報はウェブサイトへ



<http://mizunohi.jp>

水の日

検索

「水の日・水の週間」に関する情報はウェブサイトへ。
[検索対象: 国土地理院、水の日・水の週間]

主催: 水循環政策本部、東京都、水の活用実行委員会ほか
後援: 文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか

